

キノコバエ

平成23年の6月、宇治市でキノコバエ類（ハエの仲間）が大量発生して小学校のプール一面に浮遊するとともに給食室に大量侵入したため、給食を停止したという報道がありました。同じ年の7、9、11月に伏見区でも発生して保健センターに十数件の相談が寄せられました。翌年平成24年の6、7月には京都市の周辺部で頻繁に発生し、保健センターに137件もの相談が寄せられました。

キノコバエの特徴

キノコバエという名前は、キノコから大量発生したことに由来します。自然界では湿気の多い土や落葉があるところで幼虫は群生すると言われており、家庭菜園の腐葉土やプランターなどからも発生します。100種類もの仲間がいるといわれていますが、詳しい生態はわかりません。ヒトへの直接の害は認められていませんが、農作物が食害にあうことがあります。また、非常に小さい種類のチビクロバネキノコバエ（体長1～2mm）がいて、アミ戸の目を通り抜ける、サッシの隙間から室内に侵入することから、非常に不快な思いをするものです。チビクロバネキノコバエは年中発生しますが、夏には月に2回発生し、盛夏の前後（特に梅雨の時期）に大量発生します。発生時刻は大抵が夜明け頃から始まって午前中に終わります。また、雨上がりの翌日、多く発生します。

対策

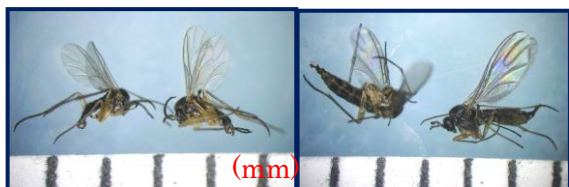
京都市周辺での発生場所は、明確にわかりません。京都市は、四方が山に囲まれた盆地であるため、発生可能な場所がいたるところにあると思われます。そのため、駆除するのは困難です。

防除

- (1) 大量発生する時期の午前中は、窓や扉をしっかり閉めて隙間対策をしましょう。アミ戸に防虫スプレーを噴霧すると効果があります。
- (2) 発生している場合、屋内換気扇の使用は控えましょう。（外から入る空気とともに、サッシの隙間などから吸い込まれることがあります。）
- (3) 屋外に扇風機を置き、侵入する窓やドアにチビクロバネキノコバエが近寄らないように横や下から風を送るのも有効です。
- (4) 侵入した場合、市販のスプレー式殺虫剤で駆除し、掃除機で吸い取ってください。



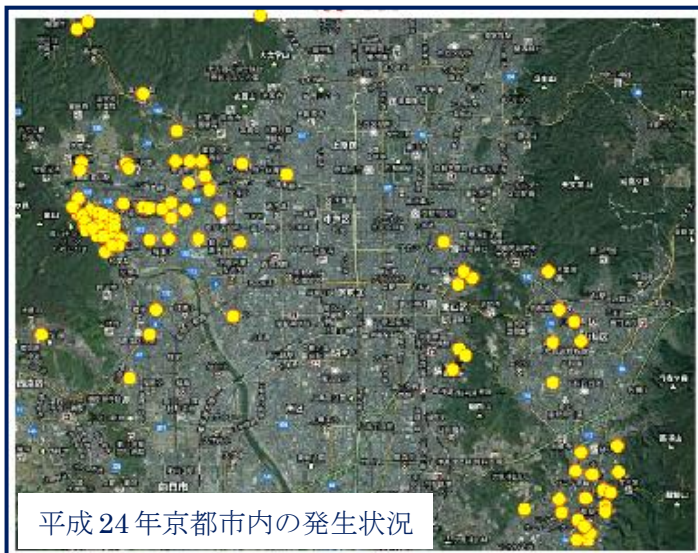
宇治市で給食室の中に侵入したチビクロバネキノコバエ



チビクロバネキノコバエ（オス、メス）



2011.6.28 京都新聞夕刊



平成24年京都市内の発生状況